Kitahara de essay

2020-2021

北原延晃

On and On

目 次

はじめに　　‥3 ページ

第1章　季節・自然　‥‥ 5ージ

第2章　家族　　‥‥27 ページ

第3章　社会　　‥‥48 ページ

第4章　昭和・平成　‥‥64 ページ

第5章　普通じゃない　‥87 ページ

第6章　教育　　‥108 ページ

第7章　リタイア・ライフ・178 ページ

第8章　おかわり！　‥222 ページ

おわりに　　‥‥254 ページ

はじめに

2020年2月27日、安倍首相による唐突な休校要請が出されました。そして新学期目前の4月7日に緊急事態宣言が発出され、結局5月いっぱいまで休校が続きました。3ヶ月もの長期間、学校から遠ざけられた先生方が元気を出してくれるようにと私はエッセイ「Kitahara de essay」の執筆を始めました。それが1年を経たずに200号を突破しました。そこで北研会員のみなさんに投票していただいてベスト100を選び、読者のコメントと共に出版することとなりました。（実際にはベスト100だけでなく、多くの回が収録されています）日付も入っていますのでコロナに翻弄されたけれどそれでも人々の着実な人生は進んでいった2020年度を思い出すのにお役立てください。

章立てはトピック別になっています。「第1章　季節・自然」では季節の移ろいや自然との思い出がつづられています。43年間フルタイムで働いてきて初めて自由になった1年間ではこれまで忘れがちだったことや気づかずに通り過ぎてしまうことに目がとまりました。人間の世界に何があっても私たちのまわりの季節や自然はたゆまぬ歩みを続けてくれています。それらから元気をもらって私たちもまた一歩を前に運びましょう。「第2章　家族」は会員から特に共感が寄せられたエッセイを集めてあります。私のファミリーストーリーです。みなさんもご自分の家族と重ね合わせながらお読みください。「第3章　社会」は社会の出来事を扱っています。「第4章　昭和・平成」は過ぎ去った二つの大きな時代へのオマージュです。ご自分の足跡を振り返る意味でもお読みください。「第5章　普通じゃない」はむかしからハチャメチャやって来た私の「普通じゃない」事件簿です。「普通じゃない」は英語で special,

exclusive, unusual, uncommon, rare, strange, weird, peculiar, extraordinary, exceptional, remarkable, outstanding, significant。どれも当たっているようで当たっていないようで。笑って読んでください。「第6章　教育」は教育現場から半歩引いた私が直球勝負で教育を語った章です。「第7章　リタイア・ライフ」は中学校教師をリタイアした後の私の行状記です。「第8章　おかわり！」はベスト100には入らなかったけれどぜひ載せたかったエッセイを集めてあります。それではどうぞお楽しみください。

第1章　季節・自然

■Kitahara de essay 24

オジサン（八丈島合宿1）5月1日(金) 第14位

京都の松田さんの生存確認メールにあったオジサンという魚。私とオジサンとの出会いは・・・

私にとって3校目となる杉並区立和田中学校。というとリクルート出身の民間校長藤原和博を思い浮かべる人が多いと思いますが、私がこれから話すのは彼が来る前の和田中学校が最高に楽しい学校だった頃の話。

海外日本人学校から赴任してくる校長は48歳という「若造」なのでみんなで一芝居打つことになりました。それは校長室の歴代校長の額の一番最後に美術教師が似顔絵を書いて在職期間を「平成6年4月1日～平成6年5月1日」とした額を掲げたのです。後でそのＹ校長が回顧するには「野武士だらけの学校に来たと思った」そうです。

しかしＹ校長は我々教職員には人気がありました。ある年の夏休みに八丈島にある校長の家で合宿をしようという話になりました。合宿といっても目的はありません。海で泳いで夜は宴会をするだけです。和田中学校が最高な学校というのはそこに集まったメンバーです。教諭、時間講師、栄養士、事務、警備、要するに学校のあらゆる業種の人たちです。

昼は校長と私が潜って魚を突きます。獲れた魚介類で宴会です。いろ

んな魚が獲れました。赤ブダイ、泳ぎが遅いのでよく獲れました。これは刺身では臭くて食べられませんが、イタリアンにしたら絶品でした。石垣フグ、フグといっても毒がない。銛で刺すと水を吸ってバスケットボール大に膨らみます。その重さで銛が折れました。鍋にしたら最高でした。八丈島では正月には欠かせない魚だそうです。てなわけで私が突いてくる魚はみんなの賞賛を浴びたのですが、1つだけ評価を下げたのが・・・ 海底の砂を吸い込んでは吐き出しているひげのある金魚のような魚を突きました。帰って百科事典を見ると・・・「オジサン」。みんな「おじさんがオジサンを獲った」と大笑いしました。塩焼きにしたのですが、そんな経緯だからうまくなかった記憶しかありません。

投票者コメント

・魚に全然詳しくない私ですが、タイトルにそんな名前の魚がいるんだと驚き、エッセイを読み画像検索までしてしまいました。

・ダイナミックで野性味あふれる北原先生の一面がよく現れていました。

・エッセイを読んで、新潟のオジサンも大笑いしてしまいました。

■Kitahara de essay 34

黒潮と魚の幼稚園(八丈島合宿2)　5月20日(水)　第26位

翌年夏も校長の八丈島の家で合宿をした。今回は3泊だったかなあ。まず10人分の食材（生鮮食品とアルコール以外）を成城学園にある成城石井に買いに行った。スパゲッティやうどんなどの乾麺やシェフ北原の料理に欠かせない調味料や女性陣のためのスイーツなど段ボール箱いっぱいになった。当時の成城石井は段ボール箱1個は配達料を